臨床経験

漢方治療が奏功した夜尿症の2症例

Effects of Kampo Therapy on the Patients with Enuresis:

Two Cases Report

松田 治己 寺澤 捷年¹⁾ 高橋 宏三
黒岩 卓夫²⁾ 土佐 寛順

Harumi MATSUDA Katsutoshi TERASAWA¹⁾ Kozo TAKAHASHI
Takuo KUROIWA²⁾ Hiroyori TOSA

要旨 今回我々は、漢方治療が有効であったと考えられる夜尿症の2症例を経験した。第1例は10歳女児で、腹部不快と夜尿を主訴として来院した。起立時の血圧低下を伴い、夜尿が毎日1～2回みられた。苓桂朮甘湯エキスを小建中湯エキスを投与したところ、服薬2日目から食欲の改善がみられ、服薬11週後には、夜尿が週1度に減少した。第2例は、8歳女児で、頻尿・尿失禁、夜尿を主訴に来院した。日中及び夜間の尿失禁がみられた。小建中湯エキスを投与したところ、三カ月の服薬により、日中の失禁が消失し、夜尿も量と回数の減少をみた。

はじめに

夜尿症による、精神的・社会的なストレスは計り知れないものがあり、生活指導、薬物治療による症状の改善は、特に発育途上にある患者にとって重要な意味を持つものである。夜尿症については、日常漢方診療の場で、数多くの治験があるものと推測されるが、詳細に記載された報告例は意外に少ない。ここでは、漢方治療により改善の得られたと考えられる夜尿症2例を呈示し、あわせて近年の文献にみられる症例について検討し、小建中湯の適応病態について考察を試みた。

症 例

症例1：10歳 女

主訴：腹部不快、夜尿

診断：起立性低血圧、夜尿症

既往歴：特記事項なし

現病歴：1年以上前から、食後に腹痛・腹鳴がみられるようになり、昭和62年1月某病院受診。低血圧（60/30mmHg座位）と蛋白尿を指摘され、自律神経失調症の診断の下に、自律神経調整剤による治療を約1年間受けていたが、症状の改善が認められず、XXXXXXXXXX漢方治療を希望し、ゆきぐに大和総合病院和漢診療を受診した。

初診時所見：自覚症状としては、寒がり、朝に強い食欲不振、疲れやすい、目眩、立ちくらみ、汗かきの傾向、咽の渇き、食後の腹痛などがみられる。また、吐き気を時に訴える。朝なかなか起きられず毎日学校に遅刻し、週に1～2日は

1) 医、富山医科薬科大学和漢診療部、富山

2) ゆきぐに大和総合病院内科

1) M. D., Toyama Medical & Pharmaceutical University (Japanese Oriental Medicine), Toyama

2) Yukiguni Yamato General Hospital

学校を休む程であるという。また夜尿は毎晩1～2回見られ、日中も尿の回数が多いなどの、排尿異常が認められる。

身体所見では、体重25.8kgで肥満や痩せはないが、座位の血圧が72/50mmHgと著明な低血圧を示し、また臥位で88/50mmHgと体位による血圧の変化も認められる。脈は細緊やや弱、舌質は正常の赤味があり、軽度の灰白苔がみられる。腹力は中等度、心下痞、左右の胸脇苦満と両側腹直筋の緊張、軽度の臍傍および臍下の圧痛が認められる。

初診時の臨床検査では、軽度の蛋白尿が認められたが、その他の異常はみられなかった。

治療方針と経過：漢方所見から、この症例には、虚労状態と痰飲が併存しているものと考え、ツムラの小建中湯エキス5.0gに苓桂朮甘湯エキス5.0gを併用し朝夕2分服とした。服薬翌日から食欲が改善し始め、食後の腹痛も減少し、2週間の服薬で、学校に遅刻することもなくなり、血圧も座位で、92/40mmHg、臥位で106/44mmHgと改善を示した。しかし、この時点では夜尿症の改善は見られなかった。再診時の腹証では、胸脇苦満が消失し、両腹直筋の緊張および臍傍圧痛は減少し、軽度の振水音と僅かな心下痞を残すのみとなっていた。そこで、前方を継続投与したところ、約11週後の来院時には、腹痛も全く消失し、夜尿も週1回程度に減少し、血圧も座位で96/52mmHg、臥位で104/46mmHgと安定した。現在も同処方投与し経過観察中である。

症例2：8歳 女

主訴：頻尿，尿失禁，夜尿

診断：夜尿症

既往歴：1カ月 左乳児化膿性股関節炎手術。

4歳 白蓋形成術，内反骨切り術。6歳 転子下矯正骨切り術。7歳 プレート抜去。

現病歴：乳幼児期から化膿性股関節炎のため、数回の手術を受けているが、泌尿器科では器質的な異常は指摘されておらず、経過観察中であった。

多尿，尿失禁は幼児期より続いており，日中も

我慢できず失禁することが多い。夜間は熟睡し，失禁に気づかず寝ていることがある。また夜尿は一晩に2～3回見られ，身体が冷えると増悪する等の症状があり，現在に至るも改善傾向が認められないため，[redacted]ゆきぐに大和総合病院和漢診療を受診した。

初診時所見：自覚的には，遊んでいても疲れやすく，水をよく飲む傾向があること以外には，症例1ほどには著明な随伴症状は認められない。

他覚的には，手掌に発汗がみられるが，肥満や痩せはない。脈は細弱で，舌質は正常の赤味があり，中等度の白苔がみられる。腹証では，腹力は中等度やや弱，両側腹直筋の緊張と臍傍および臍下の圧痛を認める。

治療方針と経過：腹証と，頻回の外科的治療が生気を損ない虚労の状をもたらししているものと考え，ツムラ小建中湯エキス一日5.0gを，朝夕食前2分服として投与した。2週間の服薬で1回毎の失禁量が減少した。しかし夜尿の回数は変わらなかった。四週間の服薬により，日中の失禁が少なくなった。いままで頻尿で1時間ごとにトイレに通っていたのが，我慢できるようにもなった。8週後，頻尿を精神的過敏ととらえ，ツムラ桂枝加竜骨牡蛎湯エキス4.0gを併用したところ，10週後には，日中の頻尿が改善し，失禁もみられなくなり，夜尿は1回程度になった。また，易疲労も改善した。服薬約3カ月後，夜尿のない日もみられるようになり，日中の失禁は全く消失し，活発となりよく遊ぶようになった。

考 察

夜尿症治療における漢方処方として教科書的には，葛根湯，越婢加朮湯，五苓散，白虎湯類，柴胡加竜骨牡蛎湯，甘草瀉心湯，苓朮甘湯，桂枝加竜骨牡蛎湯，小建中湯，八味丸などが記されている¹⁾。また，最近約50年間に症例報告として，「日本東洋医学雑誌」「漢方の臨床」「現代東洋医学」「漢方と漢薬」その他の文献に記載されたものは，表1～3に示す通りである。

今回，第1例は小建中湯と苓桂朮甘湯の併用。第2例は小建中湯単独，およびその後の桂枝加竜

表1 文献に記載された夜尿症症例一覧 (その1)

例	性別	年齢	主 症 状	随 伴 症 状	腹 証	処 方 名	文 献
1	女	12	夜尿, 寝ぼける 昼間頻尿	アレルギー性鼻炎 首肩こり	記載なし	葛根湯	矢数道明: 漢方の臨床 30(7)33, 1983
2	男	6	夜尿 日中も尿を漏らす	汗をかきにくい よく動く	記載なし	葛根湯	矢数道明: 漢方の臨床 15(5)28, 1968
3	女	12	夜尿, 日中も頻尿 寝ぼける	腰が痛む, 食欲不振 足が冷える	記載なし	葛根湯	矢数道明: 漢方の臨床 5(7)41, 1958
4	男	6	夜尿, 遊びに夢中 になると昼でも尿 を漏らす	体格は普通, よく動 く, 神経質でない 夏でも汗をかかない	記載なし	葛根湯 八味丸	田村嘉章: 漢方の臨床 30(7)33, 1983
5	女	12	夜尿, 風邪をひき やすく扁桃腺をよ くはらす	咳, 痰, いびき 頭痛, 汗が出やすい 腎炎	軽度の胸脇苦 満, 項背の強 ばり	小柴胡湯 合葛根湯エキ ス末	矢数道明: 漢方の臨床 34(2)7, 1987
6	男	3	夜尿	食欲にむらがある 風邪をひきやすい 衄血	腹皮拘急, そ の後左右胸脇 苦満, 腹直筋 の緊張	小建中湯 続いて 柴胡桂枝湯	緒方玄芳: 漢方の臨床 22(6)26, 1975
7	女	6	夜尿	痩せ, 皮膚が荒れて いる, 汗かき, 偏食 冷物・甘いもの・牛 肉を好む	左右の胸脇苦 満, 左右の腹 直筋の緊張	柴胡桂枝湯	緒方玄芳: 漢方の臨床 21(2)40, 1974
8	男	6	夜尿, 入眠 2~3 時間後に起きあが るがその場で失禁	疳積もち, 食欲旺盛 便秘, 扁桃腺でよく 熱を出す	記載なし	柴胡桂枝湯エキ ス, 芍薬エキ ス	村田恭介: 漢方の臨床 25(5)34, 1978
9	男	29	夜尿	小便普通, 頭痛肩こ り, 冷え性, 口渇	左胸脇苦満 腹直筋の緊張	柴胡桂枝湯合 桂枝加芍薬湯	相見三郎: 漢方の臨床 4(5)21-22, 1957
10	男	11	夜尿	甲状腺機能低下症の 既往歴, 汗が出ない おこりっぽい, 爪を かむ	左胸脇苦満 強度の腹直筋 の拘攣	柴胡桂枝湯	相見三郎: 漢方の臨床 13(11)35, 1966
11	女	3	夜尿, 頻尿 排尿時に苦痛	夜間掻痒	記載なし	五苓散	矢数道明: 漢方の臨床 12(8)23-24, 1965
12	女	10	夜尿	頭痛, 口渇, 頭眩 症候性癲癇	記載なし	五苓散	小倉重成: 日本東洋医学 雑誌 5(3)41-42, 1955
13	男	7	夜尿	水を飲みたがる, 瘦 せ型, 扁桃が大き	両側腹直筋が やや攣急, 振 水音	五苓散	山田光胤: 漢方の臨床 15(3)25, 1968
14	女	7	夜尿, 昼間も頻尿	体格はよい 風邪をひきやすい 鼻づまり	記載なし	麻黄湯	阪本正夫: 漢方の臨床 11(7)29, 1964
15	男	6	毎晩の遺尿	アレルギー体質 喘息の傾向, 色白 中耳炎の既往歴	記載なし	麻杏甘石湯	大塚敬節: 漢方の臨床 15(2)13, 1968
16	男	4	喘息, 夜尿	月に 2~3 回発熱と 喘息発作, 疲れやす い, 食欲低下, 活気 がない	記載なし	五虎湯	中田敬吾: 現代東洋医学 8(1)Suppl. 276, 1987
17	女	7	顔面の疔, 夜尿	食欲普通, 水をよく 飲む, 小便が近い	記載なし	麻杏薤甘湯	大塚敬節: 漢方診療百話 4 集, p125
18	男	9	寝小便	人一倍水を飲む 丈夫そうで体格よい	腹は充実 心下痞便	白虎加人参湯	小倉重成: 漢方の臨床 2(7)57, 1955

表2 文献に記載された夜尿症症例一覧 (その2)

例	性別	年齢	主 症 状	随 伴 症 状	腹 証	処 方 名	文 献
19	男	10	夜尿 日中も遺尿にきづかない	色が白く痩せ型	臍の左に索状物と圧痛, 臍付近に動悸なし, 少腹弦急なし	桂枝加竜骨牡蛎湯	大塚敬節: 漢方の臨床 5(1)30-31, 1958
20	女	12	夜尿 昼間も尿が近く漏らす	口渇が強い よく水を飲む 寝起きが悪い	軽い腹直筋緊張	柴胡桂枝湯 続いて葛根湯 その後, 半夏白朮天麻湯	平林達郎: 漢方の臨床 28(2)21, 1981
21	男	6	多量の夜尿	冷え性, 足が冷える	記載なし	苓姜朮甘湯	龍野一雄: 漢方と漢薬 5(2)128, 1938
22	男	13	夜尿	記載なし	記載なし	八味丸 桂枝茯苓丸	今村昌一: 漢方と漢薬 9(3)156, 1942
23	女	5	帯下, 夜尿	特記事項なし	腹筋は緊張気味, 臍傍圧痛がありそう	小柴胡湯合 桂枝茯苓丸	鮎川濯三: 漢方の臨床 25(3)24, 1978
24	男	7	多量の夜尿	腹痛	腹軟弱 腹筋の緊張	小建中湯	細川喜代治: 現代東洋医学, 6(1)199-200, 1985
25	男	8	多量の夜尿 昼間頻尿	疲れやすい 鼻出血	腹壁軟 腹直筋の緊張	小建中湯	同 上
26	女	6	多量の夜尿	疲れやすく虚弱	腹直筋の緊張	小建中湯	同 上
27	女	14	ときどき夜尿 昼間頻尿	肥らない, 口渇 手足が冷える	記載なし	小建中湯	大塚敬節: 漢方と漢薬 7(9)851, 1940
28	女	7	夜尿	なし	異常なし	小建中湯	三上平太: 漢方と漢薬 8(2)152, 1941
29	女	8	夜尿	汗をかきやすい 口渇, 鼻出血, 腹痛 果物を好む	腹皮拘急	小建中湯	緒方玄芳: 漢方の臨床 22(2)22-23, 1975
30	男	7	夜尿	痩せ, 疲れやすい 口渇, 手足の冷え 果物を好む	腹皮拘急	小建中湯	同 上
31	男	11	夜尿	虚弱, 落ち着かない 痩せ, はにかみや	左右の腹直筋緊張	小建中湯	三上平太: 漢方と漢薬 8(2)151-152, 1941
32	男	7	昼間頻尿 夜尿	疲れ易くよく寝込む 痩せ, 口渇	比較的軟弱	小建中湯	矢数道明: 漢方の臨床 19(1)44, 1972
33	女	5	夜尿	夜驚, 鼠径ヘルニア 疲れやすい, 寝汗 茶・冷水を飲む 果物を好む, 偏食	左右の腹直筋緊張	小建中湯	緒方玄芳: 漢方の臨床 21(2)40, 1974
34	男	11	夜尿	汗かき, 怒りやすい	左右腹皮拘急	小建中湯	緒方玄芳: 漢方の臨床 32(9)595, 1985
35	女	12	夜尿	手足が冷える, ときどき腹痛, 食欲低下 甘い菓子が好き	両腹直筋がやや緊張, わずかな振水音	小建中湯	山田光胤: 漢方の臨床 15(3)24, 1968
36	男	10	夜尿	記載なし	かなり腹直筋の緊張が強い	小建中湯	中山友記: 漢方の臨床 7(8)22, 1960
37	女	5	夜尿	風邪をひきやすい	腹部は軟らかで抵抗圧痛なし	小建中湯	鮎川濯三: 漢方の臨床 22(8)45, 1975

表3 文献に記載された夜尿症症例一覧 (その3)

例	性別	年齢	主 症 状	随 伴 症 状	腹 証	処 方 名	文 献
38	男	5	夜間遺尿, 昼間も頻尿で遺尿がある	肥満や痩せはない ときどき便失禁	記載なし	小建中湯	大塚敬節: 漢方の臨床 17(5)25, 1970
39	男	13	夜間遺尿 チェック症状	神経質, たびたび 血, 痩せ型, 少し食 べると腹痛	記載なし	小建中湯	大塚敬節: 漢方の臨床 17(10)28, 1970
40	女	10	夜尿, 頻尿	汗かき 立ちくらみ, 腹痛 疲れやすい, 寒がり 冷え症, 食欲不振	左右胸脇苦満 心下痞 両側腹直筋緊張, 臍傍圧痛	小建中湯 苓桂朮甘湯	自験例
41	女	8	夜尿, 頻尿 日中の失禁	冷え症	両腹直筋の緊張, 臍傍圧痛	小建中湯	自験例

骨牡蛎湯, との併用治療によって改善が得られた。小建中湯が奏功した夜尿症の治験報告は比較的多く, 自験2例も含めると文献41例中18例に及んでいる。共通する症状として, 痩せ, 疲れやすい, 口が乾く, 手足の冷え, または冷え性などがあり, 腹痛や嘔血, また裏急によると考えられる腹直筋の緊張の併存するものが多い。すなわち小建中湯の奏功する症例では, 少なからず「虚勞」の存在が伺えるものと考えられる。これはまさに、『金匱要略』²⁾ 血痺虚勞病脈証并治第六の「虚勞裏急。悸。嘔。腹中痛。夢失精。手足煩熱。四肢痠疼。咽乾口燥。小建中湯主之。」の条文に一致するものである。

ここで, 先の第39回日本東洋医学会総会(札幌)で竹谷の使用した三好の分類³⁾によって本症例を見ると, 第1例は深い睡眠による覚醒困難がみられ, 第2例は夜間の覚醒困難に加え, 生理的頻尿を伴っていた。また, 文献症例(表)の頻尿を伴うものは, 生理的頻尿あるいは尿保持能が低下している状態と考えられる。すなわち小建中湯は, 比較的取扱いの難しいとされる夜尿症にも, 効果を発揮し得るものであることが推測された。

日常臨床では, 以上述べたような典型的な症状の揃った症例は少なく, 特に小児においては, 正確に証を取ることが困難なことも多々ある。このような場合, 「小建中湯は, 特徴のつかめない時にも案外良く効く。所見がないことが虚勞であろう」との龍野一雄⁴⁾の記述は参考となる。すなわち, 明らかな実証でない限り, まず最初に小建中湯を使用するのも一法と考えられる。

以上, 夜尿症の小建中湯治療例2例を報告した。

附記ここに記した2症例は, 第14回日本東洋医学会北陸地方会(昭和63年10月23日金沢市)において発表した。本研究は(株)ツムラ研究助成金により為されたものである。

文 献

- 1) 藤平 健, 小倉重成: 漢方概論, 創元社, 1982, p. 289~291
- 2) 大塚敬節: 金匱要略講話, 創元社, 1980, p. 150
- 3) 三好邦雄: 夜尿症のおこり方と治療, 小児科, 22, 1503~1510, 1981
- 4) 龍野一雄: 漢方の臨床, 16(10)833, 1969
(1988年12月16日受付)